

Step by Step

～つまづいたことで見えてきたもの～



特別養護老人ホーム なの国



1年目でのつまづいたこと

(1) コロナ禍で技術教育が思うように進まない

→必要な項目の半分程度しか技術講習ができず、講習を受けたスタッフも少なかった。そのことが一般職員の関心の低さとして表れていた。

(2) リフトなどの福祉用具への知識が不足していた。

また、購入した用具も上手く活用できていなかった。

→結局、抱え上げの介助を行っている場面があった。

2年目の改善点) 指導者側の技術力強化!

(1) 指導者育成コースに合格☆

⇒コアスタッフが自信を持って、リンクスタッフや一般職員への技術教育を行うことができた。



(2) 一般職員への技術講習は柔軟に対応!

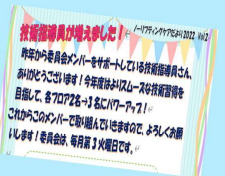
⇒昨年より講習へ参加する職員が増え、順調なペースで技術指導ができています。
また、職員も積極的にコアスタッフと時間調整する場面が増えた。



2年目の改善点) リンクスタッフ増員とマニュアル作成

(3) リンクスタッフ各フロア2名⇒3名へ増員!

⇒リンクスタッフ一人に対する負担が減り、ノーリフティングケア委員会への出席率が向上した。



(4) リンクスタッフ用のマニュアル作成

⇒役割や技術教育のスケジュールなどを簡単にまとめたリンクスタッフ用のマニュアルファイルを作成したことで、一人に対する負担軽減とスタッフの意識向上に繋がった。



2年目の改善点) リンクスタッフの意識改革

(5)リンクスタッフの意識向上に繋げる

⇒ノーフティングケア委員会で定期的の実技指導を行うことで、各リンクスタッフのモチベーションアップに繋がった。



2年目の改善点) 点検方法の改善

(6)車椅子の点検チェックシートの改善と提出方法の変更

- ・点検チェックシートは1年分⇒1か月分
提出者をユニットリーダー⇒リンクスタッフへ変更し、毎月の委員会で提出することで**確実に**車椅子の**点検**が行えるようになった。
- ・点検が行えるようになったことで、食べこぼしなどによる汚れが減り、**清潔が保たれる**ようになった。
- ・職員の福祉用具整備に対する興味・関心や、**道具を大切に使用**する意識が高まった。



2年目の改善点) 福祉用具使用者の可視化

(7)ボード・シート**対象者が判る**ようにシール作成!

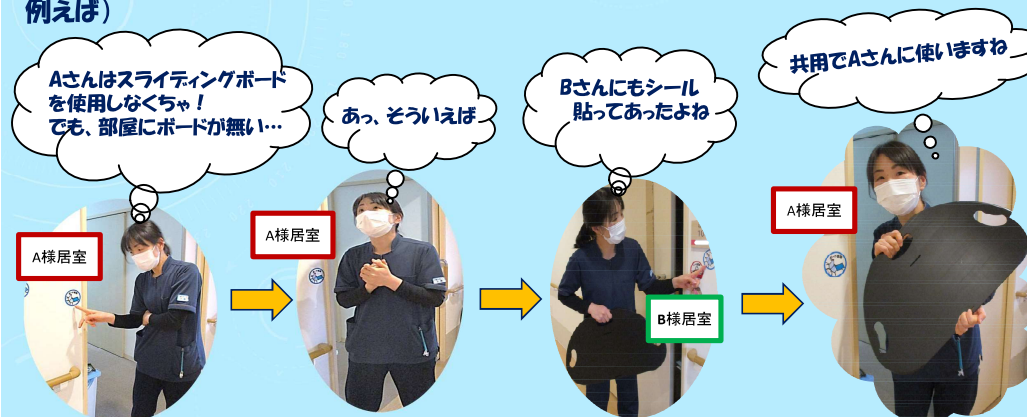
⇒スライディングボードやシートの購入は順調であるが、新規にアセスメントが必要な方に対しては、道具を共用している。コロナ禍で他ユニットスタッフが応援に入っても、移乗手段が一目で判るようになった。



2年目の改善点) 福祉用具使用者の可視化

⇒福祉用具を使用した統一ケアが実施できるようになった

例えば)



新しい挑戦！そして TRY&ERROR！

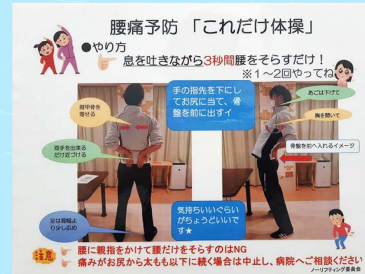
トイレやズボンの更衣介助が大変だという現場スタッフの意見から
⇒複数のリフトデモ機の導入



新しい挑戦！そして TRY&ERROR！

昨年作成した「これだけ体操」
職員に定着していないのでは…

今年から始めた10時のラジオ体操は
職員も一緒に♪



体操を行うタイミングを
リンクスタッフと見直す。
さらに⇒



腰痛体操以外でも身体を動かす機会になっています

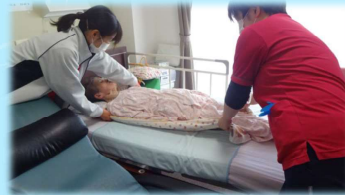
職員の声に変化が…

もう抱え上げてたタオル
移乗には絶対無理！



移乗時の入居者様の苦しい表情
が減りました。
そして皮下出血が減りました！

以前のタオル移乗



フレックスボードでの移乗



Aさんにはボードを使っている
けど、Bさんにも使いたいなあ



2年目を振り返ってみて

継続は力ない！

コロナ禍、福祉用具不足…1年目とほぼ変わらない環境下で、少しでも前に進めるように工夫を重ねてきました。

今年はスタッフの意識が徐々に向上し、真剣に取り組む姿がありました。悩みながらも継続してノーリフティングケアを広めていくことで、1年目とは違う成長した姿が見えました。

私たちのノーリフティングケアは始まったばかり ～STEP BY STEP～

- ①リンクスタッフが一般職員に技術指導ができるようになること。
- ②スタンディングリフトなどの使用が定着すること。
介護する側・される側双方の幸せに少しでもつながるように
私たちは前進し続けます。